

郷土福島の人物調べ・虎の巻

「うちのご先祖さまについてもっと詳しく知りたい!」「業界史を作りたいが功労者の業績が分からない…」等々、郷土に足跡を残した人々への関心はどれだけ経っても尽きないもの。しかし、野口英世や新島八重子のような有名人ならまだしも、ローカルな有名人の調査はなかなか名前が出ないばかりか「そもそもどの資料から調べたらいいの!？」という場合もしばしば…。そんな経験やお悩みをお持ちの方に、この「虎の巻」をお送りします。少しでもお役立ていただければ幸いです。

壹. 知りたい人物についての情報を整理すべし

「彼を知り己を知れば百戦殆からず」。まずは対象人物に関して自分が持っている情報を整理し、調査の手掛かりとなる「キーワード」を見つけましょう。

- (1) 名前は? (漢字・読み) 例えは…「野口英世」「のぐちひでよ」「野口清作」
- (2) いつの人? (年代・時代) 例えは…「明治」「大正」「昭和」
- (3) どの人? (地方・郡・市町村等) 例えは…「猪苗代」「耶麻郡」「三ツ和村」
- (4) 何をした人? (職業・功績等) 例えは…「細菌学者」「医師」
- (5) その他 (情報があれば何でも!)

貳. 福島県立図書館について知るべし

当館で地域資料を探す場合、下記のような方法があります。

(1) 蔵書検索機能

図書館のホームページや館内の検索端末 (OPAC) には、所蔵している本を探せる検索機能があります。まずは先に見つけておいた「キーワード」を調べてみましょう (複数のキーワードを組み合わせてもOK)。当館では郷土雑誌の記事見出しや執筆者が調べられる工夫をしているので、案外あっさり資料が見つかる場合も…?

(2) 地域資料コーナー

90年近い歴史を持つ当館には、古くから収集された数多くの福島県関連資料が保存されており、「地域資料コーナー」に配置されています。資料は本のラベルについた「分類番号」順に並んでいますので、番号を手掛かりに探してみましょう。

※郷土の人物調査に関わりの深いテーマ・分類番号

「県史・市町村史」L210~219 「人名事典・人名録」L281
「系譜・家伝」L288 「個人の伝記」L289

〈実際のラベル例〉

L289	分類番号
N1	
1	

参、知りたい情報に合った資料を活用すべし

当館では人物調査の役に立つたくさんの資料を所蔵していますが、載っている情報の範囲は資料によって違います。自分が持っている情報や知りたい情報に合わせて資料を使い分けることが、ゴールへの近道です。

〈入門編〉氏名から調べる

氏名が判明している人物を調査する場合、下記①～③の資料が非常に有効です。

①『福島県史 第22巻 各論 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22

収録人数の多さ・カバーしているジャンルの広さから、人物調査の基本的資料として有用です。「第1編 人物」では古代～出版当時に至るまでの物故者の略伝を、「第2編 人名索引」では、県史内における人物の掲載箇所を知ることができます。

②市町村史

県史では紹介されていない人物や、説明の少ない人物も、出身地の市町村史であれば詳しい解説が載っていることがあります。

③『福島県人物風土記』暁教育図書 1982 L281.08/F7/1

県史に比べると収録人数の多さでは劣りますが、イラスト・写真をふんだんに盛り込み、市町村ごとに人物を整理する等、読みやすさに優れます。文化遺産や地区ごとの歴史紹介もあり、郷土史の入門書としても有用な資料です。巻末に人名索引あり。

郷土の人物が書いた資料・郷土の人物について書かれた資料を探したいときはこちら。

④『福島県人物書誌総覧』菅野俊之／編 工房ポチ&アプリコット 1999 L025.1/K1/3

福島県関係人物の著書目録、紹介されている図書の情報を人物ごとに紹介しています。

⑤『郷土ゆかりの人々 地方史誌にとりあげられた人物文献目録』

飯澤 文夫／監修 日外アソシエーツ 2016 281.031/17 161/

1997年（平成9）～2013年（平成25）に発行された地方史研究雑誌・地域文化誌及び地方史関係記事が比較的多く掲載される全国誌約2,200誌から、19,877人に関する人物文献46,729点を収録した資料です。活躍地域（都道府県別）の下、50音順で人物及び記事内容が掲載されています。巻末に人名索引あり。

ここまで紹介した資料でも、カバーし切れていない人物はまだあり、そのような場合には少し視点を変えた調査が求められます。次ページからは〈発展編〉として、更に掘り下げた調査をするための資料をご紹介します。

〈発展編1〉時代を手掛かりに調べる

調査対象の人物が生きた時代や出身地が判明していれば、下記の資料が役立ちます。

【江戸時代】

江戸時代の福島は、多数の藩や幕府によって治められていました。領地ごとの資料をまとめて調査するには、下記の資料が便利です。

①『福島県史 第8巻～第10巻(近世資料)』福島県 1965-1968 L210.1/F1/1-

『福島県史』の近世資料編は、4巻に渡って藩・領地別ごとの史料を収録しており、人物名簿の類も載っています。全年代をカバーしているものではありませんが、藩士は主に「分限帳」と呼ばれる名簿に、領民は「人別帳」(戸籍のようなもの)等に名が見られます。

※各巻の収録藩及び幕領・神領

8巻：磐城平藩・泉藩・湯長谷藩・小名浜領・白河藩・越後高田領・棚倉藩・塙領

9巻：相馬藩・福島藩・桑折藩・梁川藩・川俣領

10巻(上)：二本松藩・三春藩・守山藩・下手渡藩・下村藩・分領

10巻(下)：会津藩・南山御蔵入領・長沼藩・大久保藩・三枝領・神領

②『三百藩家臣人名事典 第2巻』家臣人名事典編纂委員会／編 新人物往来社 1988

L281.03/S4/1

1600年(慶長5)～1871年(明治4)までの家臣事典。会津藩・下手渡藩・下村藩・白河藩・棚倉藩・福島藩・三春藩・守山藩の8藩が収録されています。巻末に人名索引あり。

なお、各市町村史にも『福島県史』に無い史料が載っている場合があります。また、会津藩・相馬藩等は、その藩のみに絞った人名録が出版されており調査に便利です。

【明治～昭和時代(戦前)】

①『福島県人名辞典』時事通信社編輯局／編 時事通信社 1914 L281.03/J1/1

明治～大正時代にかけて活躍した県人の人名辞典。いろは順に名前が並んでおり、人物によっては肖像写真も載っています。

②『都道府県別資産家地主総覧 福島編(全2巻)』渋谷隆一／編 日本図書センター 1995

L281.03/S5/1-

明治～第二次世界大戦終了時まで発行された資産家名簿・地主名簿・長者番付の集成。福島編では1888年(明治21)～1930年(昭和5)の全11資料を復刻・掲載しています。

③『福島県紳士紳商録』福島県紳士紳商録刊行会 1930

県内在住の名士の他、東京・仙台・大阪・樺太在住の県人も加えた約1,000名を紹介した資料です。「法人ノ部」では、当時の県内企業情報についても知ることが出来ます。

【昭和（戦後）～平成時代】

地元新聞社による年鑑等、定期刊行の資料が見られるようになり、利便性がアップしています。

①『みんゆうデータブック（旧：福島県年鑑）』福島民友新聞社

1947-2015（年刊・2015年版をもって刊行終了） L059/F1/

②『民報年鑑（旧：福島縣市町村年鑑）』福島民報社 1951-（年刊） L059/F2/

この2種類の年鑑には、公民問わず職員名簿・人名録が掲載されています。出版年代によって掲載内容に差異がありますが、1つの年や期間に絞っての調査が可能です。

③『福島県 人物・人材情報リスト』日外アソシエーツ株式会社／編集 日外アソシエーツ 1994-（隔年刊） L281.03/F17/

出版年時点で活躍している人物を中心に、物故者および在日外国人も含めた県の著名人約3,000名を収録。略歴等の基本情報の他、その人物が掲載された図書・新聞の見出し情報も付記されています。いま現在活躍中の福島県人を知る上で、特に有用な資料です。

〈発展編2〉職業・業界を手掛かりに調べる

特定の職業団体や業界によって出版された資料には、普通の人名録には登場しない人物や詳しい功績が掲載されていることがあります。下記にその一部をご紹介します。

【県知事】

・『全国知事会六十年史 資料』全国知事会 2007 318.2/セノ07X/2

p65-67に、昭和中期～2006年（平成18）の期間に在任した県知事・副知事・出納長の氏名及び就任・退任年月日が掲載されています。

【市町村長】

・『福島縣市町村要覧』福島県総務部市町村総室／編 福島縣市町村振興協会 1986-（年刊） L351/F5/1-

県内市町村の市町村長・副市町村長・議長及び副議長名が掲載されています。

【医師】

・『福島県医師会史 下巻 資料篇』福島県医師会 1981 L490.6/F2/2

p515-709「第八部 主なる医師略歴（明治39～昭和54）」で県医師会に在籍していた主な医師約1,000名について、略歴や医師会における役職等を掲載しています。

【農業家・林業家・蚕業家】

・『福島県農業史 5 人物』福島県 1983 L612/F3/5

福島県の農業・林業・蚕業に功績を残した人物844名の略歴を掲載しています。

【学校長】

・『明治百年福島県教育回顧録』福島県公立学校退職校長会 1969 L372/F8/1

県在住の公立学校長経験者（退職者・現職小中学校長・物故者等）の略歴を掲載しています。なお、学校が絞られていれば各学校史（誌）も役立ちます。

肆. 先人の残した足跡に学ぶべし

実際に県立図書館に寄せられた調査事例を2件ご紹介します。

【質問 No. 1】

「木村吉清」について知りたい。安土桃山時代の武将。蒲生氏郷の客臣となり、与えられた杉目城を福島城と改称。「福島」の名付け親となったといわれる。

【回答】

1. 氏名から調べる

- (1) 『福島県史 第22巻 各論編 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22
→p116「木村伊勢守吉清」の項があります。

2. 時代を手掛かりに調べる

- (2) 『福島県史 第9巻 資料編 近世資料2』福島県／編 福島県 1965 L210.1/F1/1-9
→p567「9 福島城と検地村高」に「木村伊勢守」の記述があります。
- (3) 『福島県史 第10巻下 資料編 近世資料4』福島県／編 福島県 1968 L210.1/F1/1-10-2
→p5「1代々領主変遷および会津古罌記」の「蒲生氏郷」の項に「蒲生公之長臣 高五万石 福島 木村伊勢守」の記述があります。
- (4) 『福島市史 第2巻 近世』福島市史編纂委員会／編 福島市教育委員会 1972 L211/F6/2
→p3-41「第1編 幕藩体制の成立 第1章 蒲生領時代」の「第1節 蒲生氏の信達支配」
「第2節 福島城主（蒲生の支城）木村吉清支配の村々」に多数記述があります。

3. 「福島城」をキーワードに調べる

- (5) 『ふくしまの城（歴春ふくしま文庫 57）』鈴木啓／著 歴史春秋出版 2002 L081.6/R1/57
→p44-「福島城」の項に「木村吉清」の記述があります。
- (6) 『福島考古 第42号』福島県考古学会 2001.3 L210.02/F11/42
→p105-118「福島城の変遷と構造」鈴木啓／著に「木村吉清」の記述があります。
- (7) 『福島県文化財調査報告書 第197集 福島県の中世城館跡』福島県教育委員会／編 福島県教育委員会 1988 L709/F2/3-197
→p21「杉目城（大仏城、福島城）」の項に「木村吉清」の記述があります。

4. 「蒲生氏郷」をキーワードに調べる

- (8) 『蒲生氏郷のすべて』高橋富雄／編 新人物往来社 1988 L289/G2/4
→p238「蒲生氏郷家臣人名事典」に「木村伊勢守吉清（清久・弥一右衛門）」及び「木村秀望（弥市右衛門）」の項があり、父子に関する記述があります。

【一言コメント】氏名・時代が特定出来ているため、県史や市史が活用できたケースです。『福島考古』のような雑誌掲載記事も、キーワード検索で見つけることができます。

【質問 No. 2】

明治・大正にかけて活躍した会津若松出身の植物学者「大沼宏平」について知りたい。

【回答】

1. 氏名から調べる

(1)『福島県史 第22巻 人物』福島県 1972 L210.1/F1/1-22

p117に「大沼宏平」の項目があり、生没年・出生地・死亡地・伝記・参考文献と略歴の記載があります。

2. 郷土の人物について書かれた資料を調べる

(2)『会津人物文献目録』野口信一／編纂 歴史春秋社 1980 L281.6/N3/1

p66に「大沼宏平」の項目があり、生没年・職業・別名・続柄と関連文献の記載があります。また、氏について記載のある文献として(3)(4)の紹介がありました。

(3)『会津生物研究資料集 1』会津生物同好会／編・刊 1968 L460.8/A1/1-1

p1-p3「大沼宏平氏伝」(馬場篤／著)に、大沼氏の生い立ち・人となり・研究業績が紹介されています。また、参考文献として(4)の資料が紹介されています。

(4)『植物採集行』末松直次／著 西ヶ原刊行会 1931 470.49/S/

「この小著を大沼宏平翁の墓前に捧げる」との献辞があり、序文においても大沼氏の紹介と彼の死を悼む文章が書かれています。また、収録されている植物採集行の逸話に大沼氏が登場し、氏の写真も掲載されています。

【一言コメント】

県史に加え、参考文献(本を書くときの情報源となった資料)を芋づる式に辿ることで色々な情報が得られたケースです。参考文献も調査を進めていく上での大きな手掛かりの1つです。

伍、終わりに～インターネットでの情報公開を活用すべし～



図書館では、調査に役立つ資料の紹介や事例の公開など、インターネット上でも情報公開をしております。ぜひご覧ください。

【調査に役立つ資料紹介は県立図書館ホームページから！】

「本の森への道しるべ 地域 54-56 郷土福島の人物を調べる」では、今回ご紹介した資料も含めた多くの人物調査向け資料を紹介しています。ぜひ下記アドレスよりご覧ください。その他、県史・市町村史の目次情報も随時公開中です。

～本の森への道しるべ「福島県に関すること」～

<<https://www.library.fks.ed.jp/ippan/honomori/honomori-chiki.html>>

【調査事例の紹介は「レファレンス協同データベース」から！】

当館の調査事例は、国立国会図書館「レファレンス協同データベース」でご覧いただけます。該当HPトップ<<http://crd.ndl.go.jp/reference/>>⇒「詳細検索(レファレンス事例)」⇒検索条件「提供館名」に「福島県立図書館」を指定することで閲覧可能です。

(地域資料チーム 阿部誠)